

1 学校教育目標

「たくましい心と体を持ち 未来に向かって生きる 栄っ子」

◇めざす学校像

「みんなの笑顔があふれる学校」

◇めざす子ども像

- (1) 「自ら進んで、学びを深める子ども」
- (2) 「自分や他人を大切にし、協力する子ども」
- (3) 「じょうぶな体で、最後までやり抜く子ども」
- (4) 「自ら考え、進んで行動できる子ども」

◇学校の特色

『学び』：小規模校の強みを生かした授業の展開

『読書』：外部人材、委員会等を生かした活動の充実

『歌声』：表現活動として、日常的な歌声を大事にした教育

2 学校経営基本方針

- (1) 「バランスの取れた知徳体を育成する学校づくり」
- (2) 「仲間と共に高め合う集団活動のできる学校づくり」
- (3) 「小規模校の特性を生かした学校づくり」
- (4) 「家庭・地域に開かれた学校づくり」
- (5) 「危機管理が徹底された安全安心な学校づくり」

3 指導重点

(1) 確かな学力：全ての児童の学力の定着と向上をめざす

- ①基礎基本の定着
- ②聞き合い、学び合う主体的・対話的な学習活動の促進
- ③ICT機器を効果的に活用した「深い学び」の実践
- ④わかりやすい授業の推進、学習意欲を高める指導法の工夫・改善
- ⑤学習習慣の確立、保護者と連携した家庭学習の推進
- ⑥特別支援教育支援員の効果的な活用

(2) 豊かな心：心の触れあいを深め、思いやりのある児童の育成をめざす

- ①いじめ・不登校を生まない「心の居場所」となる学級づくり
- ②特別の教科「道徳」の推進と充実
- ③読書活動の充実
- ④自然体験や社会体験などの体験活動の充実
- ⑤あいさつ運動の推進
- ⑥豊かな情操を育む活動の充実

(3) たくましい体：全児童の体力の向上及び、健康・安全教育の充実をめざす

- ①体力向上に向けた『健康・体力づくり一校一実践運動』の推進
- ②基本的な生活習慣の定着と啓発、健康教育
- ③学校給食を通しての望ましい食習慣の形成、食教育
- ④安全安心な環境の整備と安全教育の推進
- ⑤学校安全計画・危機管理マニュアルの見直し・改善

(4) 生徒指導：児童・保護者の心に寄り添う生徒指導の充実をめざす

- ①いじめの早期発見・早期解決
- ②望ましい人間関係の構築
- ③児童会活動の充実と自治意識の高揚
- ④児童理解と相談体制の充実
- ⑤家庭や関係諸機関との連携

(5) 開かれた学校：地域・社会に開かれた信頼される学校づくりをめざす

- ①積極的な情報発信・収集と学校の公開
- ②保幼小連携、小小連携、小中連携の推進
- ③スタートカリキュラムの確立・実施
- ④地域人材の活用
- ⑤学校評価システムの活用
- ⑥学校運営協議会・PTA・関係機関等との連携協力

4 校内研究

(1) 研究主題

「思いや考えを豊かに表現できる子どもの育成」

～関わり合い，学び合う授業づくりを通して～

(2) 研究主題設定の理由

言語活動の充実は，学習指導要領において各教科を貫く重要な柱であり，各教科で行われる知的活動の基盤でもある。言語活動とは，相手からの情報を五感を用いて取り入れ，その情報を理解・整理・分析・比較し，まとめたものを説明・発表・報告・論述するなど，思考・判断・表現のそれぞれの領域において言語を用いて行う活動であり，言語の力を育てる知的活動である。また，確かな学力とは，知識・技能に加え，学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力を含む幅広い資質や能力等まで含めたものであるが，事実を正確に聴いて把握し，他者に的確にわかりやすく伝えること，互いの考えを伝え合い，関わりをもちながら学び合うことで，自分の考えや集団の考えを発展させるなどの言語活動の充実を通して，向上すると考える。さらに社会が複雑になり，そこに生きる人々の価値観も多様化している中，よりよい人間関係を築き，よりよく生きていくためには，豊かなコミュニケーション力が必要であり，「関わり合い，学び合う力」は，これからの世の中でますます重要になってくると思われる。

本校では，2013年度から「思いや考えを豊かに表現できる子どもの育成」のテーマのもと，各教科・領域における言語活動の充実を図り，自分の思いや考えを豊かに表現できる子どもの育成を目指して研究を続けてきた。また，2016年度からは「関わり合い，学び合う授業づくりを通して」をサブテーマに掲げ，児童同士の関わり合いを授業の中で意図的に仕組み，児童の思考を深める授業づくりについての研究を深めてきた。

これまでの継続した研究の積み重ねにより，「相手に伝えるためにはどうすればよいか」「どう言えば伝わるか」児童自身が意識するようになってきた。授業では課題解決に向けて自分の考えを自分の言葉で伝え，友達の言葉に耳を傾け，お互いの考えをつなげていこうとする姿や，友達の考えからさらに自分の考えを広げていこうとする姿が見られ，一定の成果を得ることができた。だが，すべての児童が自主的に関わり合って学ぶことについてはまだ十分とは言えず，そのための授業のあり方にも課題が残る。各種検査結果からも，習得したことを活用して自分の考えを説明したり表現したりする力

の育成が必要であると思われる。そのことを踏まえた上で、今後もすべての児童の表現力がより広い範囲でさらに高められるような手立てを追究していくことが重要である。

また、本年度は「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を求める新学習指導要領全面実施3年目の年であり、今年度の山梨県学校教育指導重点でも「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善及び評価に取り組み、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に努める」と謳われている。学ぶことに興味や関心を持ち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習内容を振り返って次につなげる「主体的な学び」。子ども同士の協同、教職員や地域の人との対話等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」。各教科等で得た知識を関連づけながら考えたり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」。これらの授業改善の三つの視点は、言語活動を充実させ関わり合い学び合う授業づくりを目指す、本校のテーマや研究内容に重なる部分も多いと考える。以上のようなことから、今年度も昨年度の研究を引き継ぎ、さらに発展させていくために、同じ研究主題を設定した。

豊かな表現力の向上には、「言語活動の充実」が欠かせない。単元や授業の中で、主として考える場面と対話の場面（考えをまとめ、発表し、他と比較して再考する場面）、見通す場面と振り返る場面（自分の学びを把握する場面）の設定の工夫、学習内容に対して関心・意欲を高める（学びに向かう力を高める）工夫などに重点を置いて取り組んでいきたい。そのことにより、児童自身にとって学びに向かう過程が明らかになると共に、教師にとっても児童が関わり合って自主的に学ぶ姿をいかにして育てていくかがより明確に浮かび上がってくるとと思われる。

さらに授業改善を目指す上で、「やまなしスタンダード・授業づくりの7つの視点」を日々の授業の中に取り入れ、授業力の向上につなげつつ、児童が学習に積極的に向き合い、自分の考えを持ち、友達と関わり合いながら豊かに学びを深めていく姿を目指した授業作りを進めていきたい。

（3）研究目標

関わり合い、学び合う授業を工夫・改善することで、自分の思いや考えを豊かに表現できる児童を育成することを目指し、その授業実践等を通じて効果や課題を検証する。